

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270200017		
法人名	社会福祉法人太陽とみどりの里		
事業所名	グループホームなごみ(月山ユニット)		
所在地	島根県安来市広瀬町広瀬117-3		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和6年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年4月に現場所に移転して丸3年が経とうとしています。新しい環境の中で自分らしさを忘れずにという理念に基づいた支援を継続して行っています。コロナウイルス感染症の位置付けが5類へ移行となりましたが、感染予防対策を取りながら出来る範囲で、近所の神社にお参りに行ったり、地域の商店に買い物に行ったりと気分転換を図っています。定期的な訪問診療を受け、医療の充実も図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の法人には特老、デイ、居宅等複数のサービスがあり、グループホームも開所から20年以上が経過し歴史がある。重度になっても法人全体で受け入れる態勢も整っている。母体から少し離れた静かな住宅地にコロナ禍の中移転。敷地も広く周辺を安全に散歩できるスペースも確保され、プレハブだが敷地内に面会室も建てられている。内部は新しく綺麗で、天井も高く落ち着いた雰囲気がある。この1年は管理者と複数の職員の入れ替わりや利用者の入退所も続き、慌ただしく時間が経過した様子が感じられた。コロナ感染症が5類になっても変わらない対応を続けており、感染者の発生はない。業務に慣れるのに精一杯との声もあったが、前グループホームからの経験豊富な職員を中心に、体を動かすことや手作業を取り入れたり、残存能力を維持するように計画されている。今後においても施設の特徴を生かし、充実した生活が送れるよう取り組んでいただきたい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作成し、職員会やミーティング等で担当を中心に、個人の目標を考えながら支援をするようにしている。	開所当初に作成された理念を継続しており、事務所の目に付きやすい場所に掲示している。事業計画の中に理念の考え方を取り込み、新人職員には教育係を付けて業務の流れと共に伝えているが、充分ではないと感じている。	理念を共有して業務にあたれるよう検討していただきたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	思うように地域との活動が出来ていないのが現状である。同町の商店に買い物に行ったり、この正月には地域のとんどさんに参加し交流した。	地元自治会の活動はコロナ禍以前には戻っておらず関わりは少ないが、正月のときには数名参加している。ボランティアの受け入れも中止しているが、専門学校の実習や中学生の職場体験等の受け入れは行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染防止から思うように活動が出来ていない。「認知症カフェ」の再開もしていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、第3回から運営推進会議を開催した。運営推進会議での助言や意見を回覧等で周知し、サービスの質の向上に努めている。	コロナ禍で書面開催のこともあったが、集合して定期に開催している。家族代表や自治会長、市、包括等の参加があり、利用者の状況や行事の実施状況、事故や委員会の報告等を行い意見交換に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や福祉課・介護保険課と連絡調整を行っている。	運営推進会議には市、包括から毎回参加があり、専門的立場から助言を得ている。生活保護担当課からは年1回面接があり、状況を報告し情報共有している。認定調査でも関わりがあり、質問事項は電話で聞いたりといい関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は、定期的な研修を実施しなかったが、状況をみてミーティング等で検討した。	身体拘束にリスクマネジメントの委員会を定期に開催。センサーマットの使用について検討したり、アクシデント、ヒヤリハット事例を上げ事故防止に繋げている。帰宅願望から外に出る方がいるが日中の施錠は行っておらず、職員と一緒に歩いたりと対応を検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修や外部研修を通して、日頃から虐待についての話をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用の方があり、関わっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前の見学を柔軟に受け入れ、サービスについての具体的な疑問に答えるとともに契約時には重要事項説明書にて説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の暮らしの中で担当者を中心に支援につなげている。家族の面会時にはコミュニケーションをとるようにしている。	法人全体の便りは年2回送り、グループホームの便りも2か月に1回送っていたが、今年度は1回だけになっている。電話で様子を伝える時や、面会時に意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面接を行い要望や意見等を聞く機会を設けている。普段からコミュニケーションをとるようにしている。	年1回面談の機会を設けており、今年度は正規職員以外の職員について行っている。管理者は気になる職員に声をかけたり、日頃から意見が言いやすい雰囲気になるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の意向調査や人事考課等で、個人の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、個の資質向上を行った。内部研修が思うように出来てなく全体の資質向上につながっていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の延長で交流する機会を控えている。研修で知り合った同業者との意見交換で終わっている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接等で本人の情報を入手し、安心して生活が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明や施設見学等で、状況を把握しながら今後の支援について話し合い信頼関係を築くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との面会や関係機関の情報をもとにカンファレンスを行い、必要と思われる支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物干しや調理の補助等出来る事はしてもらっている。利用者同士助け合って生活をされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当を中心に家族に連絡をし相談等行った。面会時に情報提供を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や電話等で交流されている。自宅のミカン狩りに行き近所の方と交流をされた。なじみの美容院や商店にも出かけている。	あまり多くはないが、友人の面会があった場合は面会室で過ごされている。時間が短いため延長を希望する声も聞かれ、5類になり面会は増えてきている。馴染みの美容院に行く方が3名。行きつけではないが買い物も楽しめるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しユニット間で行き来をしたり、居室で一緒にお茶を飲まれたり、作業を一緒にしたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所されても感染症防止のため思うように面会が出来ていない。ケアの内容については情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を中心に情報提供を行い、若い頃の習慣や行っていたことなどを理解しながら、出来る事を継続してもらっている。	認知症の為思いを伝えられない方があり、日頃の様子から推測している部分も多いが、できることに繋げるようにしている。面会時に言われたことを家族からも聞き、取り入れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人・家族からの聞き取りを行っている。信頼関係を作るための時間を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を見ながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当と計画作成者・介護支援専門員が利用者・家族の意向を聞きながらケアプランを作成している。毎日のケアのポイントをチェックし、支援している。	モニタリングは、サービス内容の実施状況を日々チェックしながら月ごとにまとめ、半年に1回総まとめをしている。コロナ禍で集合して担当者会議はできていないが、電話や面会時に話を聞いて計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の確認事項を作りケアの内容を把握し、支援している。申し送りノートでケアの共有と意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて柔軟なサービスが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社への散歩や公園へのドライブ、なじみのお店に行く等、感染防止対策をしながら出来る事を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の訪問診療が主であるが、本人や家族の希望でかかりつけ医を受診している方もおられる。	入所時に話をし、今までのかかりつけ医を継続することも施設の協力医に変更することもできるが、定期の往診が受けられる協力医に変更する方が多い。他の科の受診は町内に限り職員で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行えるように努めている。介助のポイントやアドバイスを聞き、ケアに反映させている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護職員は付添い情報提供を行い、退院時には情報提供をもらいスタッフで共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認している。重度化・終末期にはその都度話し合いを行いケアの方針を決めている。	法人内に特老があり重度になっても対応が可能のため、介護度3になったら特老の申し込みについて話をするようにしている。身体状況の変化に合わせて、その都度家族関係者と話し合いの機会を持ちながら進めるようにしているが、現在平均介護度は1点台と軽い状況が続いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時のマニュアルを作成している。日常より看護職員と対応について話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。自治会の方にも協力をお願いしている。	自然災害に遭いにくい場所であり、主に火災中心の避難訓練を昼、夜に分けて定期的に行っている。近くに母体の法人があり支援体制はある。施設近くの職員も多く、備蓄も準備し有事に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で何気ない言葉で利用者 を不快な気持ちにさせていないかミーティ ング等で確認している。	言葉使いが適さない場合や否定的な言い方 等、気がついた時には注意するようにして いる。虐待、身体拘束、接遇を含めて施設内研 修を行い、ケアの基本として繰り返し取り組 んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自己の意思決定出来ない方もいる。支援者 本位ではなく利用者がどのように何を望ん でいるのかその人の思いに沿うような支援 を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムに配慮し利用者の ペースで過ごせるよう心掛けています。声掛 け、同意を得てお手伝い等してもらって いる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	自分の好みの髪形や自分で着られる服や お好みの服を選んでもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	誕生食として主食を赤飯等に変更して提供 した。盛り付けや後片付けを一緒に行って いる。	主食と朝食は作っているが、昼、夕の副食に ついては湯煎して提供する物を利用してい る。調理に関わる場面は多くはないが、主 に盛り付けや洗い物、拭く作業を手伝う方 がいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	食事形態の工夫をしたり、体調等に合わせ 食事の提供をした。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	利用者の状況に応じ、声掛けや介助を行 った。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、なるべく本人の思いでトイレに行っていただくように支援している。	布パンツの方、紙パンツにパットなど個々に合わせて使用している。布パンツで失敗する方や尿意が合わず汚染する方もいるが、動きがある前に声がけして排泄を促すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表で一人一人の排便状況を把握し、適切な運動、散歩、牛乳等で排泄を促している。腸内環境を整えるために職員手作りの甘粥を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみて臨機応変に対応している。同性介助を希望される利用者がおられ同性介助の対応をしている。	やや大き目の家庭浴槽で、中に入りにくい方はイスに腰かけた形で入れるようになっており、週に2から3回入浴できるように調整している。異性の介助を嫌がられる場合は調整して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にこだわらず個々の落ち着けるスペースで休息されている人もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用途を理解し対応出来るようにしている。一人一人服薬方法を見極め、個々に合わせた対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいことを尊重し、やりたい物を出来る範囲で提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や季節に応じた外出をしている。衣類の衣替えに自宅まで一緒に出掛けた。家族と一緒になじみの店に外食に出掛けた。	施設の裏は道路なので高いフェンスがあり、その内側にも低いフェンスが囲み、テラスから出て芝生を歩いたり、日向ぼっこもできるようになっている。天気の良い日には外でお茶もできるいい環境がある。食材の買い物にも数人ずつ出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人が希望された場合はお金を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯をお持ちの方は、家族や知人に電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の空気や季節を感じてもらうためのスペースを用意し、暖かい日差しの際は日向ぼっこが出来るようにしている。	玄関、事務所を中心に左右対称に2つのユニットがある。デイルームには3畳くらいの畳の部分があり、雛人形が飾られている。窓から花木を眺めて季節を感じることができ、季節に合わせたちぎり絵も作成している。天井は高く、明るくて静かである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやテラスのソファでゆっくり過ごされている。居室で利用者同士でお茶を飲まれたり、外の景色を眺めたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や家から持って来られた絵や家具等落ち着いた居室作りに努めている。	数枚の洋服が入るタンスが備え付けられている。使い慣れたタンスや衣装ケースを持ち込んだり、テレビ、イスなどを置いたり、家族写真を多く飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の状態に合うようにタンスの位置や介助バー等を利用し安全に移動出来るようにしている。トイレも分かりやすいように張り紙をしている。		